



## 1. 気象経過と生産への影響

- 経過：1月豪雪（最大積雪量：120～150 cm） ⇒ 4～5月少雨 ⇒ 8月低日照・多雨多湿 ⇒ 9/18 台風接近 ⇒ 10/23 台風 21 号接近 ⇒ 10月中下旬の低日照等
- 果樹類の開花期は昨年より 7～10 日遅れで経過。（ほぼ平年並み）

品目名	りんご	もも	ナシ	プラム	サクランボ
H29 満開日	5/5	4/24	4/30	4/20	4/26
昨年差	+12	+7	+11	+8	+7

- ① 4～6 月合計降水量平年比 75% ⇒ 初期の玉肥大停滞
- ② 8 月中旬降水量 342%（極多）・日照量 49%（極小）湿度 85%（極高）⇒ 病害多発
- ③ 9 月上旬までに年間降水量 1,000 mm 到達（異例） ⇒ 病害多発
- ④ 台風 18 号接近（9/18）：最大 18.3m/s（北北西）観測 ⇒ 南部地帯で落果被害多
- ⑤ 台風 21 号接近（10/23）：最大 25.5m/s（北）観測 ⇒ 北部地帯で落果・冠水被害
- ⑥ 10 月降水量 286%（極多）、日照量 55%（極小） ⇒ ふじの成熟遅れ・品質低下
- ⑦ 11 月の低温・降雪（初雪 11/18～21） ⇒ ふじの成熟遅れ・食味不良等

## ● りんご生産量及び平均糖度

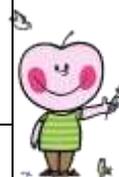
品目名	つがる	秋映	スイート	ゴールド	ふじ
生産量 (昨年比)	95% 100 トン	115% 295 トン	115% 130 トン	110% 120 トン	80% トン
平均糖度 (%) ( ) は昨年度	—	13.1 (13.4)	14.4 (14.8)	14.1 (14.3)	14.8 (15.3)

- ① 雪害：全体の 10% 程度の減収と見込まれる。
- ② 台風被害：全体の 10～15% 程度の減収と見込まれる。
- ③ 早生種（つがる）：雪害・面積減・収穫前ロス等あり昨年比 95% 前後で終了。
- ④ 中生種：病害・台風により減収・品質低下あったが、昨年量を約 1 割上回る。
- ⑤ ふじ：雪害・病害・台風被害により減収・品質低下顕著。昨年比 80% 見込み。

● 収穫期開始・果実品質等

開花期が昨年比 7～10 日遅れのため、全体の収穫・出荷時期も同様の傾向。

品目名	収穫開始予想
りんご	早生：夏あかり 8/5～・つがる 8/25～・恋空 7/30～ 中生：秋映 10/2～・スイート 10/10～・ゴールド 10/20～ 晩生：シナノホッペ 10/25～・ふじ 11/5～
もも	早生：白鳳 8/1・あかつき 8/3 中生：なつっこ 8/12 晩生：川中島 8/24・黄金桃 8/26・白根 9/12・GP9/18
ナシ類	幸水 8/25～・豊水 9/7～・あきづき 9/15～・南水 9/20～ オーロラ 8/24～・バラード 9/15～・ラフランス 9/28～10/9
プラム	大石 7/2・紅 7/17・静香 7/20・サマーE7/30 貴陽 8/5・きよか 8/17・太陽 8/18・秋姫 9/3



- ① 玉肥大：結実後の少雨や摘果の遅れにより初期肥大停滞 ⇒ 8月以降の多雨・多湿はあったものの、初期肥大不良が要因でふじは特に小玉傾向であった。
- ② つがる：8月の低日照・多湿により、着色遅れが大きく遅れた ⇒ 9月収穫の割合は昨年の3倍強。果肉水分含有量も多く日持ち性が悪い状況であった。日焼け果や炭そ病被害果の発生は小程度であった。
- ③ 中生種：昨年比 7～10 日遅れ。炭そ病被害多かった。秋季の日照不足等もあり、低糖度で経過。成熟が全体に昨年より大きく遅れ、スイートでは11月の集荷量が昨年比 3 倍弱、ゴールドでは昨年比 8 倍強であった。台風被害による品質低下が目立った。
- ④ ふじ：全域で小玉傾向。ふじ特有のツル割れ果発生は少なかった。梅雨後半以降の感染した輪紋病発生が多く、台風被害による品質低下が顕著であった。(上位等級品不足) 10月中旬以降の低温・低日照状態により、着色・蜜入り・成熟が大きく遅れ、11月の集荷量は昨年の 8 割にとどまった。

特徴的な障害：ふじ芯カビ果の多発 ⇒ 外観正常で果芯部の腐敗あり

(参考) ふじ小玉果実の要因

- ① 前年の負荷大・花芽充実不足 (不良)
- ② 結実後の少雨による初期肥大不良
- ③ 作業の遅れ

## 1. 病害虫特記

病害虫名	発生時期	発生程度	対策
黒星病	6月中旬～	小～中	発芽後からの予防散布徹底
うどんこ病	5月中旬～	中～多	越冬源（病原）除去・早期予防散布
炭そ病・輪紋病	9月上旬～	小～中	梅雨時期防除徹底・被害果早期除去
シンクイムシ類	7月中旬～	中～多	5月からの薬剤散布徹底
ハダニ類	8月初旬	無～小	6月下旬からの薬剤散布徹底

### ◆ 黒星病

4/26頃初期感染 ⇒ 5/25頃の降雨で果実感染拡大 ⇒ 一定の潜伏期間を経て6月中旬頃果実被害発生。加えて、6月中下旬の低温・多雨により感染が続き、薬剤散布が後手にまわった園では果実被害が拡大した。

### ◆ うどんこ病

5月の少雨・乾燥で感染拡大。越冬源も非常に多く、紅玉等ではかなりの被害あり。薬剤散布と並行して越冬源（病原）の除去が不可欠。

### ◆ 炭そ病・輪紋病

つがるには小発生であった。8月中旬頃感染したと推測される病斑が9月初旬から発生。炭そ病：シナノドルチェ・秋映・ゴールドに多い。輪紋病：ふじに多い。りんご全体に腐敗性病害によるロスが昨年より多かった。

### ◆ シンクイムシ類

果実表面を加害するスモモヒメシンクイの被害が7月中旬から断続的に発生。果実被害が多い園地では越冬数も多く、次年度の早期多発が心配されるため早めに段階での対策が必要。効果薬剤：合ピレ系（バイスロイド・イカズチ・アーデント他）・ネオニコ系（バリアード・ダントツ他）

### ◆ ハダニ類

7月末～8月初旬に一時的にナミハダニの発生密度高まったが、その後の豪雨等あり全体には小発。ただし、温暖化により早期多発が心配されるため、次年度も6月下旬からの殺ダニ剤散布が必要。

## 2. 品種構成の見直し

目標構成割合：早生種 10%、中生種 30%、晩生種 60%

熟期	早生種	中生種	晩生種
収穫時期	7月下旬～9月上旬	9月中旬～10月末	11月以降
主力品種	シナノリップ(8月中旬) 優良系つがる(8月下旬)	秋映(10月上旬)	百年ふじ(11月初旬) らくらくふじ(11月上中旬) 長ふ-12(11月中下旬)
補完品種	夏あかり(8月上旬)	シナノスイート(10月中旬) シナノゴールド(10月下旬)	シナノゴールド
試作品種	恋空(7月下旬)	すわっこ(9月中下旬) トキ(9月下旬) なかの真紅(赤肉)	ムーンルージュ(赤肉) なかののきらめき(赤肉) ぐんま名月
更新対象品種	不良系つがる	千秋・ジョナG・陽光	着色不良系ふじ

### ① 早生種

- 品種構成率 5% ⇒ 10%へ
- シリーズ化販売構築・同一品目内労力・危険分散等を考慮し早生比率を10%まで引き上げる。
- 導入品種案：シナノリップ(8/20～)
- つがるや少量品種からの更新、他品目からの改植等。

### ② 中生種

- 構成比率 30%維持
- 全体の3割を占める中生種の生産性向上と高品質化を図る。摘花の実施、薬剤摘果利用、初期の果面保護、環境に応じた適期収穫等。
- 安定生産・安定所得が見込まれる秋映を中心に販売環境・出荷時期・労力面を考慮し構成する。
- 生産基盤の弱体化が目立つ秋映の基盤再構築と少量・不良系品種の淘汰。

### ③ 晩生種

- 構成比率目安：50～60%
- 着色不良系ふじの淘汰。
- 着色優良系ふじへの更新。(百年ふじ・らくらくふじ・長ふ12の3本柱)

